

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」の地床栽培における栽植密度と収量性

[要約]イチゴ「ゆめのか」の地床栽培において、株間22～28cmでは、株間が広いほど年内収量は減少しやすいが、第1次腋花房の収穫開始日が早くなるため、2月までの早期収量と5月までの総収量の株間による差はない。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、株間

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2017年度

[背景・ねらい]

長崎県型高設栽培における「ゆめのか」の株間は30cmでは第1次腋花房収穫開始日が早くなるが年内収量が低くなるため、20～25cmの株間が妥当だと明らかにした（長崎農技セ2015成果情報）。

そこで、地床栽培における最適な株間を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 株間が広いほど第1次腋花房の収穫開始日は早くなる（表1）。
2. 株間が広いほど年内収量は減少する傾向となる。2月までの早期収量と5月までの総収量は株間による差はない（表2）。
3. 株間が広いほど株当たり収量および1果重は増加しやすく、a 当り収穫果数は減少する傾向となる（表2）。
4. 株間が広いほど旬別収量が平準化する（図1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」の地床栽培における栽植密度の指標として活用できる。
2. 株間によってa当り株数が異なるため、労働力に応じて株間を調整することが望ましい（表2）。

[具体的データ]

表1 各株間における開花日、収穫開始日

年	株間	頂花房		花房間葉数 (枚)	第1次腋花房 収穫開始日 (月/日)
		開花日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)		
2015年	22cm	10/20±1 ^z	11/17±2	4.3	2/7±4
	25cm	10/21±2	11/19±2	4.3	2/5±5
	28cm	10/20±2	11/18±2	4.5	1/31±3
2016年	22cm	10/17±1	11/17±2	6.6	2/15±5
	25cm	10/17±1	11/18±1	6.9	2/13±5
	28cm	10/18±1	11/17±1	6.8	2/7±4

^z ±は95%信頼区間の幅

表2 各株間における収量、1果重、収穫果数

年	株間	a当り株数		総収量 (kg/a)	うち 年内収量 (kg/a)	早期収量 ^z (kg/a)	株当り収量 (g/株)	1果重 (g/果)	収穫果数 (千個/a)
		(株/a)	22cm比 (%)						
2015年	22cm	670	100.0	440 ns ^y	144 ns	231 ns	657.3 ns	18.3 ns	24.0 ns
	25cm	590	88.1	442	132	228	749.0	19.4	22.8
	28cm	520	77.6	450	125	237	865.3	20.2	22.2
2016年	22cm	670	100.0	399 ns	125 ns	185 ns	592.5 ns	15.9 ns	26.5 ns
	25cm	590	88.1	417	126	181	704.2	16.1	27.9
	28cm	520	77.6	389	113	180	736.0	17.1	24.6

^z 2月までの収量

^y Tukeyの多重検定により5%水準で有意差なし

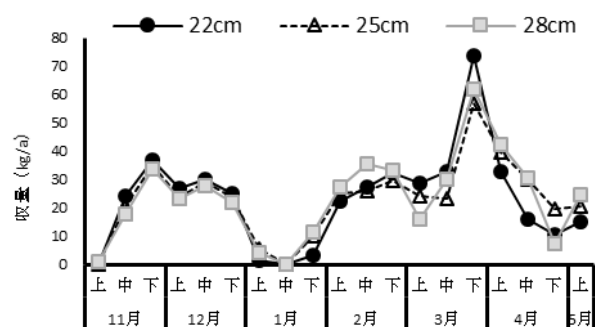


図1 旬別収量 (2015年)

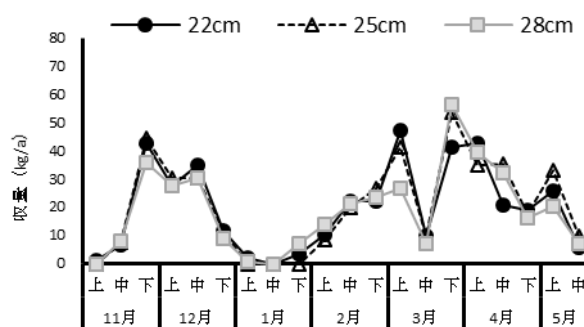


図2 旬別収量 (2016年)

○耕種概要

育苗－高設雨除け育苗、ランナー切り離し：2015年6月10日、2016年6月9日、施肥量 N-200mg/株

暗黒低温処理期間－2015年8月26日～9月9日、2016年8月25日～9月8日

定植日－2015年9月10日、2016年9月9日

収穫期間－2015年11月～2016年5月11日、2016年11月～2017年5月15日

本圃－地床栽培、うね幅 135cm、施肥量 N-10kg/10a、1区8株3反復

[その他]

研究課題名：イチゴ次期有望品種「ゆめのか」の安定生産技術の確立

単収日本一を目指したイチゴ「ゆめのか」の増収技術開発

予算区分：県単

研究期間：2013～2015年度、2016～2018年度

研究担当者：松本尚之